



この教会堂を大切に
守っていくのが私の
仕事です。

東京都 ▼ 五島市

新
ナガサキ
移住のカタチ
自分らしい生き方

永松

翼さん

Life in Nagasaki

移住歴1年半

静かな
小さな島で
世界遺産を守る。

旧五輪教会堂は瓦葺木造ながらリブ・ヴォールト天井がある。初期の木造教会建築の代表例として、1999年に国の重要文化財に指定された。

本当にやりがいを感じています」と永松さん。
でも最初は、悩んだこともあったと言う。「教会守という仕事をする上で、久賀島の人たちとの交流は大切だと考えていました。しかし自分自身が人見知りなこともあって具体的にどうすればいいのか全く分からなかったんです」。永松さんは、島内の除草作業やスポーツ大会に積極的に参加することで、それを解決へと導いた。「今ではバイクで走っていると挨拶をしてくださったり、孫のように接してくださる方がいたり、少しずつですが、自分が島の人たちに受け入れてもらっていることを実感しています」。
永松さんは「五島での生活は都会にいた時よりも充実している」ときっぱり。休日には自然の中をロードバイクで疾走し、初のハーフマラソンにも挑戦した。「よく寂しくないかと聞かれますが、移住者同士のつながりや、地元の人との交流もあります。私は教会守という仕事がある限り、ここで暮らしたいと思っています。やりたいことは若いうちに、やっておきたいですね」。

五島列島の島の一つである久賀島には、過酷なキリシタン弾圧の歴史があり、信仰を守り抜いた人々の心が今も息づいている。二〇一八年、世界文化遺産に登録された久賀島の集落。中でもその象徴的存在が「旧五輪教会堂」だ。約百四十年前に建てられた教会堂は素朴ながら厳かな雰囲気がい、訪れた人の心を魅了している。
教会守を務める永松翼さんは大学時代、卒業論文のテーマに長崎の教会群を選んだことをきっかけに、五島列島の教会群に興味を持ったと話す。卒業後、航空関係の企業に勤めたものの「いつかは世界遺産に携わる仕事がしたい」という夢を叶えるため、五島への移住を決めた。
永松さんは隣の福江島から毎日一時間半かけて教会堂へやってくる。船に二十分揺られ、久賀島に着いてからバイクや徒歩で約一時間という道のりを雨の日も風の日も通う。主な仕事は建物の保全や、観光客の案内。「観光客からの意外な質問から新しい発見があったり、後日お礼の手紙をいただいたり。勉強すべきことは尽きませんが、

教会堂のそばにある待機所には、参考書籍がズラリ。空き時間を見つけては勉強している。台風の時には、ここで一晩を過ごすことも。観光客からの嬉しい手紙は心の励みに。

旧五輪教会堂 教会守

